

双葉郡 視察旅行

日時：令和元年 11 月 15 日・16 日

場所：福島県双葉郡（大熊町・富岡町・楡葉町）

1. はじめに

今年度の「地域交流活動」は、「双葉郡 視察旅行」と題して、東日本大震災後の復興状況を見学してきました。

見学施設は、汚染土壌の処理を行う「中間貯蔵工事情報センター」と、東京電力の廃炉の現状を伝える「廃炉資料館」です。さらに、2020 年開催される東京オリンピック聖火ランナースタートの地となる「J ビレッジ」も見学しました。

今回、このテーマを選んだのは、次の理由からです。

- ① 大震災による原発事故復興状況の現実を知りたい。
- ② 多くの方々が自分の生活を取り戻せていない。
- ③ 被災し避難し、元の家に住むことが出来ない会員がいる。
- ④ 被災した方々に寄り添いたい。

そして、今回の実現のきっかけになったのは、会員の中に昨年 4 月から復興に関する仕事をしている方がいたことがあります。

見学施設は、3 箇所でした。時間の制約もあり、情報量も多く、全て理解するには至りませんが、現地の様子をみることで、被災者に少しでも寄り添うことができるような気がしました。

国道 6 号線を走ると、荒れ果てた住宅や、家に入れないように道路沿いには鉄の柵がある様子を見て、心が痛みました。以前は、にぎやかに子供たちが楽しく遊ぶ姿があり、そこには、住民が生活する様子など想像することができます。

私たちには何もできませんが、被災した仲間にも少しでも寄り添うことで、出来るなら「勇気付けたい」と思いました。

現地へ向かう途中では、台風 15 号による爪痕もみることができました。川沿いには氾濫した水が押し寄せドロ、ゴミ、流木が河原の木々に引っかかっていました。

2. 行程

令和元年 11 月 15 日（金）

- 13：00 天神岬温泉 しおかぜ荘 集合
- 13：35 中間貯蔵工事情報センター視察
- 14：15 東京電力廃炉資料館視察
- 15：30 J ビレッジ視察
- 16：10 天神岬温泉 しおかぜ荘 懇親会

令和元年 11 月 16 日（土）

朝食後、自由解散

3. 視察施設

(1) 中間貯蔵工事情報センター

中間貯蔵施設は、除染により発生した土壌等を最終処分するまでの間、安全かつ集中的に貯蔵するための施設です。(施設リーフレットから引用)

「中間貯蔵工事情報センター」で印象に残っている内容は次のようなことです。

汚染土を運ぶトラックの管理には GPS を使用して徹底した管理をしていること。中間貯蔵施設での土の処理の仕方。そこから出る汚染水についても気を配り、幾重にも遮水層を敷き管理する様子。

広大な処理場には、元は住宅が並び人が生活していた場所であること。

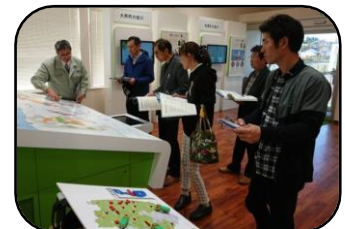
同行した会員の方が、今は立ち入り禁止の場所を差し「ここが私の家だった」という言葉を聞くと、いっそう現実味を帯びます。

この施設の入口には右のような絵画がありました。

これは、「保原高等学校美術部」の生徒が「がれきに花を咲かせようプロジェクト」と題して描いた作品で2014年2月10日掲示されたものだそうです。

この作品は、海の中を明るく元気に泳ぐ魚達を描いたもので、「仮置場を明るい雰囲気に変えよう」という想いが込められているそうです。(以前は伊達市仮置き場に掲示されていた作品)

保原高等学校は、同行した仲間の母校でもありました。



(2) 東京電力廃炉資料館

東京電力廃炉資料館は、原子力事故の事実と廃炉事業の現状等を確認できる場として「旧エネルギー館」に設置されました。原子力事故の記憶と記録を残し、二度とこのような事故を起こさない為の反省と教訓を伝承するための施設です。(施設リーフレットから引用)

「廃炉資料館」に入ると、最初に、地震発生から原子力事故とその対応について、「シアターホール」で当時の様子を映像で見ました。その後、パネルや写真、模型によって、地震発生から電源復旧までの11日間を振り返ること。1～4号機原子炉の状況、全電源喪失した1・2号機中央制御室の事故当日の様子、そこから「反省と教訓」、汚染水対策、燃料取り出し、燃料デブリ取り出し、廃棄物処理、福島第一で働く人々などなど……。断片的にですが新聞、TVで見てきた状況を思い出しました。



(3) Jビレッジ

Jビレッジは、1997年7月に日本初のサッカーナショナルトレーニングセンターとして開設されました。2011年3月11日に発生した東日本大震災と、それに伴う原発事故の影響により一時休止を余儀なくされました。その後、2019年4月20日より全面再開を果たしました。(ホームページから引用)

時期が早い為、聖火ランナースタートの地であることは、この看板でのお知らせだけでした。オリンピックが近くなると、賑やかになることでしょう。

Jヴィレッジについての設立経緯や施設規模は概要しか知りませんでした。いくつかのグラウンド、宿泊施設やトレーニングルームなど完備されており、規模に驚きました。

被災者の仲間は言います。「芝生には鉄板が敷かれ駐車場になり、事故復旧のための原発下請け会社のバスが出入りし、想像できないほどの状況だった」と。

TVの報道を断片的に記憶している仲間もおります。

当時の様子をインターネットで調べると当時の様子は、避難所。「現地調整所」としての前線拠点。特殊車両の待機場所。作業員を診断する医療班常駐。1000人規模の寝泊まり。



芝のフィールドは、ヘリポート・駐車場・除染場・作業スペース・資材保管場所として使われ、一部はアスファルトや砂利が敷かれた。J ヴィレッジスタジアムのフィールドにはプレハブが設置。(ウィキペディアから要点を引用)

現在の様子を見ただけでは、当時の悲惨な状況はとても想像できません。被災者の気持ちも思うと、忘れ去られてしまことがとても悲しくなります。

(4) 天神岬スポーツ公園 「展望の宿 天神」

全室海向きで太平洋が一望できる、爽快な景色が楽しめる宿泊施設です。(ホームページから引用)

「展望の宿 天神」はとてもきれいな建物で、キャンプ場やイベントが楽しめる広場や散策できるエリアもあり、是非多くの若者たちにぎわって欲しい場所です。

懇親会では、乾杯の前に、台風 19 号による犠牲者の冥福を祈り「黙祷」を捧げました。その後、美味しいお料理を頂きながら、震災時の体験談や各見学施設での感想など話し合い、2 次会は部屋でワインを飲み大いに盛り上がりました。

被災者の苦労を全て理解することはできませんが、少しでも寄り添えたような気がします。自己満足かもしれませんが、有意義な一日でした。



4. おわりに

芝浦工業大学 校友会 福島支部においては、会員の親睦、『きずな』を深める為、支部交流会を開催しております。

はじめの頃は、家族など同伴者を含めての旅行会的なことで実施したこともあります。

最近では、福島県の土地柄、歴史、について知るための研修も実施しております。今回のように、身近な問題を考える研修もあります。

このような活動を通して、会員相互の親睦を深めること。福島県について考えること。交友関係を増やして人生を豊かにすること。そして、お互いの仕事に生かすこと。これらの事柄を目的としております。一度きりの人生です。有意義な人生を送りましょう。

多くの方々に参加して頂きたいと考えております。

興味を持った方はどうぞ、事務局へ問い合わせてください。お待ちしております。

耳より情報

令和 2 年度から規約改定を行い、初年度会費免除の特例を設けました。

「芝浦工業大学 校友会 ホームページ」の「全国校友会支部紹介」をご覧ください。

福島支部への問い合わせは支部ホームページ (フェイスブック)

事務局：渡部誠 (mako_arch@yahoo.co.jp)